

申請者 所属・職：健康科学学部・講師

氏 名：中村 泰久

論文掲載概要

論文題名	Structured Comparison Approach in Remote Interprofessional Education: Enhancing Role Clarity and Collaborative Identity Through Video-Based Reflection
論文著者	Ysuhisa Nakamura, Kazuko Ando, Kyoko Otani, Mayumi Yoshikawa, Ayako Furuzawa
掲載雑誌名	Education Sciences,
掲載雑誌 IF	2.6
掲載ページ	15(6), 687
掲載雑誌 URL	DOI https://doi.org/10.3390/educsci15060687
発行年月日	2025 年 6 月 1 日
雑誌出版社	MDPI

論文抄読

1. 概要

1. 概要：養成課程の分断で他職種理解の機会が限られる中、作業療法学生（OT）と精神保健福祉学生（MHSW）を対象に遠隔の多職種連携教育を行った。対象は 180 名で、2022～2024 年度に 2 セッションとして実施した。ビデオ事例を共通刺激とし、国際生活機能分類（ICF）の評価比較を核にした。

2. 方法

評価の違いを材料に振り返りと内省を促す「ICF 比較アプローチ」を用い、多職種連携教育（IPE）を実装した。同期的なオンライン交流を必須としない低リソース設計とし、多職種学習準備尺度（RIPLS）と多職種教育認識尺度（IEPS）の前後比較に加えて、レポートを質的分析する混合研究法で教育効果を検証した。

3. 結果

IEPS の「能力と自律性」が有意に向上し、介入前得点が低い MHSW で改善が大きかった。質的には、前提の揺さぶり、知識の死角への気づき、相互補完性の理解、チームへの貢献意識の形成が確認された。

4. 結論

短期間・低リソースの遠隔 IPE でも、専門職アイデンティティと協働意識を育て得る可能性が示唆された。ICF で職種差を学習資源として扱うことで、対面が難しい状況でも相互理解と協働への動機づけを促進し得る。とくに他職種接点が乏しい学部で有用である。低得点群ほど改善が大きい点から、学習機会が乏しい層への介入として有用性が高い可能性がある。今後は、学外実習や臨床場面と接続した効果の持続性を検証する。